

国際交流学学科 3年

留学先：スペイン・サラマンカ大学

留学期間：2023年3月～2023年8月

私は半年という短い期間であったため、とにかく後悔のない行動を心がけた。心がけたことは行動力という1つのことではあるが、あらゆる面で発揮したと言える。

大きく分けて2つだが1つ目は学校内の行動である。授業では半年で上級クラスに所属する事を大目標として行っていたが、テストでいい点数を取ることがなかなかできず、上には上がある辛さを知った。語学力の中でも会話力が劣っていたことに気づいた私は、多くの話す機会を取り入れることにした。学校の遠足や毎週行われる交流会に積極的に参加し、そこで出来た友人と放課後や休日に遊びに出かけたり、勉強会を開催したりするなど話す回数やそこで得られる教養、会話スキルを増やしたことで、交流の輪が広がるだけでなくテストの点数が徐々に上がり、上級クラスに所属するという大きな目標を達成することができた。定量的に目標達成できたことだけではなく、今までは少数の人としか交流することができずにいた私が、大勢の前でも羞恥心を捨てて意見を述べたり、質問をしたりできるようになっていたり、友達との関わり方も留学以前は自分から誘うことが少なかったが、積極的に誘い、スペイン語を用いても日本の友達と同様、恋愛話や悩みを打ち明けあうような交流の楽しみを知れるようになっていたりなど留学を経験したからこそ得られた定性的な成長もある。このように、日本に生活していると感じられない自分の強みや弱みが理解でき、自分自身と見つめなおす時間が多く作れたことは私にとって大きな成果だった。

そして2つ目は休日に行った一人旅だ。留学したての3月、留学終わりの8月の二回にわたり行ったが、明らかに変化が見られた。3月の旅行は注文することや聞かれたことに応えることに精一杯で携帯の翻訳や地図アプリが必須だったのに対し8月は、現地の人に話しかけ道を聞いたり、穴場スポットにいけたり、店員さんと他愛もない話をしたりするなどといった旅行の本来の楽しさを導きだせるようになっていたのだ。これが出来るようになったのも日々話すことに努めた期間があったからといえる。学校だけではなくプライベートでも、沢山話をしていた。ホストファミリーやスペインの友人に今日起きたことや嬉しかったこと、悲しかったこと、家族や日本の文化の話などなんでも食事の際に欠かさず話していた。ホストファミリーや友達は私の頑張りに応えようと会話の中で間違った表現や言葉を指摘してくれたことで日々語学力が向上したと言っても過言ではない。何よりも受け身にならないことは大事だったと感じた。プライベートも大きな人生経験の1つとなった。

